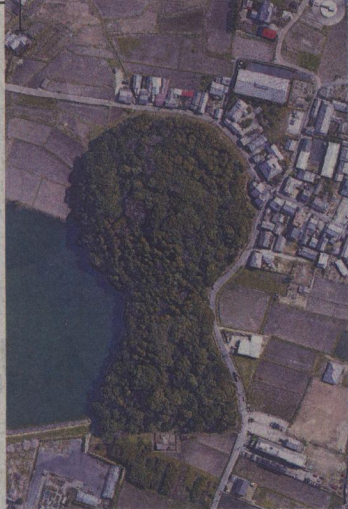


草木に覆われた箸墓古墳の航空写真^④と、上空からの測量データを元に作製された3D画像^⑤
(県立橿原考古学研究所、アジア航測提供)



箸墓古墳

卑弥呼の“墓所”、 3Dでクッキリ

邪馬台国の女王、卑弥呼の墓ともされている奈良県桜井市の前方後円墳、箸墓古墳（3世紀後半、全長約280^{ほしはか}）の3次元（3D）画像を、県立橿原考古学研究所と測量会社「アジア航測」（東京）が合同で作製し、5日発表した。

今年4月、ヘリコプターで上空から同古墳にレーザー光を照射して測量し、草木のない状態の、全体の精密な形状を再現。大正時代の測量図しかなかった同古墳は、前方部が4段とされてきたが、今回の測量で3段と判明した。

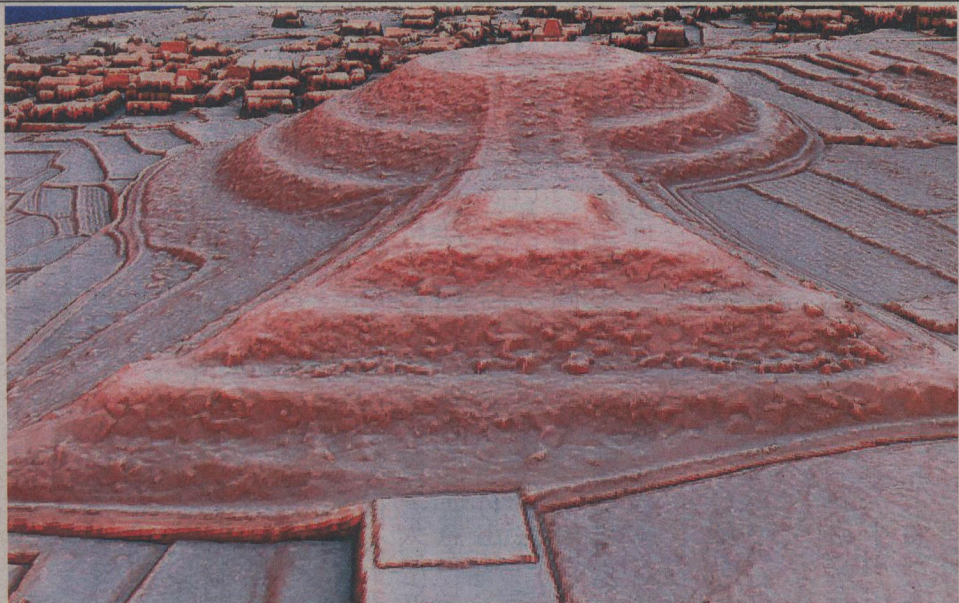
また、南北の両側に階段状の「段築」が存在することも初めて確認され、後円部頂上の円丘を取り囲むように、ドーナツ状の盛り土がある



ことも分かった。

橿考研は「形状がくっきりと確認でき、今後の調査で貴重な資料になる」としている。

3D画像は6～17日、同県橿原市の橿考研付属博物館で一般公開され、動画で見ることができる。問い合わせは同博物館（☎0744・24・1185）。



レーザー測定で作製された西殿塚古墳の3D画像（榎考研、アジア航測提供）

の墳
古墳
理塚
天西殿

通路中央部に窪み

榎考研、3D画像で確認

県立榎原考古学研究所が5日、公表した箸墓古墳（桜井市）の3次元（3D）画像。同時に作製した天理市の古墳時代前期の前方後円墳「西殿塚古墳」の3D画像でも、前方部から後円部につながる通路の中央部に窪みがあることなどが確認された。

榎考研は「古墳時代初期の大和古墳群の形態の変遷などを知る手がかりになる」としている。同古墳は、3世紀後半、4世紀初めの築造とされる。全長約230メートル、後円部の直径は約140メートル。宮内庁は、継体天皇の皇后、手白香皇女陵（念田陵）として管理している。

ア航測（東京）が合同で今年4月、同古墳にヘリコプターで上空からレーザー光を照射して測定した。その結果、前方部から後円部につながる通路の中央部に窪みがあることが判明。

さらに、従来は東側が1段、西側が2段との説もあった同古墳の前方部が、今回の測定の結果、東側が3

段、西側が4段で、後円部と同じ段数であることも確認された。

榎考研の西藤清秀副所長は「レーザー測定によって、西殿塚古墳の明瞭な墳丘形状が分かった」と話している。